

平成27年度予算特別委員会速記録（第6号）

平成27年3月6日（金） 午後1時開会

場 所 第3・4委員会室

○委員長（二島豊司君） これより歳出第6款産業経済費の質疑を行います。

初めに、錦織委員。

○委員（錦織淳二君） 産業経済費では、観光振興についてお伺いします。

2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会まであと5年半に迫りました。某大手旅行会社では新しい旅行のあり方として、眼鏡をつけると、かつての江戸城や日本橋のCG映像がその場で立体的に浮かび上がる仮想現実を取り入れた3Dツアーが今月から始まります。例えば、皇居前で、ツアー客が眼鏡型装置スマートグラスをかけて皇居の方に目を向けると、目の前に1657年の明暦の大火で消失する前の天守閣のある江戸城があらわれ、振り返るとそこには江戸のまちが広がります。

次に、日本橋に立って見上げると、青空が広がり、首都高速道路はありません。前後左右を見回すと、橋を行き交う町人や物を売る商人の姿が見え、イヤホンからは日本語か英語で説明が流れるようになっています。

これは、この会社が東京大学発ベンチャー企業と共同で開発・企画したもので、CGによる再現映像の時代考証は専門家に依頼し、3Dツアーを情報通信技術を活用した次世代ツーリズムと位置づけています。念頭に置くのは、やはり多くの外国人観光客が見込まれる東京オリンピック・パラリンピック競技大会で、都内にはヨーロッパのような歴史的な建物が少なく、外国人観光客の東京観光は買い物が多いのが現状なので、仮想現実を使い、江戸時代から連綿と続く東京の魅力を打ち出す戦略ということです。

また、この会社は、今後、全国各地の特徴を生かした企画を検討するということで、例えば、ユネスコ世界文化遺産に登録された群馬県の富岡製糸場では、女工さんの働く様子を再現し、恐竜の骨が発掘される福井県では、恐竜が歩く姿をスマートグラスで映し出し、天候や季節に左右されやすい景勝地では、晴れていたら、桜の満開のころだったら、といった補完的な役割にも活用したいということです。

区では、このような情報をチャンスと捉え、これらの新たな技術を区の観光振興に生かしているというお考えはないのでしょうか。

○産業振興課長（佐々木貴浩君） コンピュータグラフィックス技術をはじめ、新たな技術を取り入れた観光振興の取り組みは、観光客に新たな体験を通して、区内観光をさらに楽しんでい

ただけるものと考えております。錦織委員ご紹介のとおり、観光スポットで四季折々の魅力を疑似体験できるなど、観光客に観光地の魅力を効果的に伝えられ、観光のよい思い出を刻んでいただく効果などが見込まれるものと考えております。今後の観光面での活用につきましては、技術動向や観光客のニーズなどを見きわめながら、効果的な活用方法について調査を行ってまいります。

○委員（錦織淳二君） ぜひよろしく申し上げます。

東京都は、オリンピック期間中、1日あたり最大92万人の観戦客が都心と臨海地域を移動すると予測しており、かねてから申し上げているように、その観戦客が区内で1人1万円を使っていただけで1日につき92億円、オリンピック開催期間中で1,564億円になり、区の年間予算に匹敵する額を17日間で潤すことになります。これにプラスしてパラリンピック観戦客の13日間の消費分、及び観戦客以外の観光客の消費分も区に誘導し、大きな経済効果をもたらすために、今のうちから区主導で区の著名な観光スポットにこのスマートグラスを置けば、多くの観光客・観戦客を港区に招致できることになります。

例えば、東京タワーの展望台でスマートグラスをつけて江戸時代のまち並みが眼下に見おろせるとしたらどうでしょうか。江戸は、建物の高さや道路幅が決められており、幕末の俯瞰写真を見るとヨーロッパの各都市にも劣らない美しさであったことがわかりますし、前回の東京五輪が開催された1964年時のまち並みも見えるようにすればおもしろくなると思います。さらには恐竜時代から現代までを描いたら大人気になることは間違いないのではないのでしょうか。

また、一昨年、キアヌ・リーブス主演のハリウッド映画「47RONIN」が公開され、いまや外国人観光客から脚光を浴びている泉岳寺でスマートグラスをつければ、忠臣蔵が目の前に登場し、赤穂四十七士の紹介とともに泉岳寺に向かう行列が見ることができるとなれば、世界に向けての宣伝効果は抜群です。さらに舛添東京都知事がシャンゼリゼ通りにすると言われた新虎通りを、虎ノ門ヒルズからスマートグラスをつけて見おろせば、パリに恥じないような未来の新虎通りが眼下に広がり、現在のようにがっかりして帰るような観光客はいなくなると思います。

つきましては、ほかの自治体に先駆けて、観光協会、商店会、観光関連事業者、経済団体と共同で、区内観光地にスマートグラスを用意し、多くの観光客を呼び込むお考えはないのでしょうか。

○産業振興課長（佐々木貴浩君） 区は昨年度、スマートフォンなどを活用した観光アプリケーションまち歩きナビの導入にあわせ、まち歩きナビをスマートグラスに連動させ、スマートグラスから道案内や観光スポットの情報を得ながら、区役所周辺の増上寺や東京タワーなどをめぐるまち歩きツアーの実証実験を行いました。このまち歩きツアーには定員を上回る応募をいただき、参加した小学生からは、楽しかった、意外と簡単だったといった声をいただいております。

今後のスマートグラスの観光事業への活用方法については、技術動向等の情報収集に努め、新たな試みについて検討してまいります。

○委員（錦織淳二君） 既にスマートグラスを活用した道案内と観光情報の提供を行う実証実験が実施され、好評を得ているとすれば、3Dツアーの検証がある程度できていると思います。東京五輪まで日がないので、ぜひ急いで検討してください。

また、観光客は滞在日数が決まっており、東京だけではなく北海道から沖縄までを観光する中で、観光客の招致合戦は熾烈なものになると予想されます。区は、海外からの玄関口で、かつホテル客室数がナンバーワンという立地条件に甘えていては負けてしまいます。待っていては観光客をほかの自治体にとられてしまいます。一例でスマートグラスを挙げましたが、東京五輪までカウントダウンが始まったからには、いち早く戦略を立てて実行に移さない限り間に合わなくなってしまいます。区は、観光客を区内に呼び込むための仕掛けづくりについて、どのような具体的な考えをお持ちでしょうか。

○産業振興課長（佐々木貴浩君） 区は平成27年度から平成29年度までの3年間を計画期間とした第2次港区観光振興ビジョン後期計画を策定しております。計画では、国内外からの観光客を区に呼び込むため、区の多彩な観光スポットなどを紹介するプロモーション動画を作成し、インターネットを活用して世界中へ配信する取り組みや、ソーシャルネットワークサービスなどを活用し、外国人目線で興味を引いた観光スポットなどを情報発信していただく仕組みなどを検討・構築していきたいと考えております。

○委員（錦織淳二君） ぜひ、観光客が旅行計画を立てる段階で港区観光を予定として入れていただけるような仕掛けづくりをお願いします。

しかしながら、仕掛けづくりだけでは観光客を集めることはできません。それらの仕掛けにふさわしい観光地としての景観を守り、環境づくりをしなければなりません。環境づくりについてどのような戦略をお考えでしょうか。

○産業振興課長（佐々木貴浩君） 区内の各観光地が景観などの保全を行うことは、観光地の魅力を高めることにつながると考えております。区の観光振興の事業としては、区内の魅力的な観光情報の発信を充実させ、多くの観光客に訪れていただくことが観光地の魅力をさらに高め、観光地の環境も良好に維持されることにつながると考えてございます。

○委員（錦織淳二君） そのとおりです。

では、先ほど、泉岳寺観光用のスマートグラスの話をしました。赤穂浪士の討ち入りが武士道や忠義として普遍的な価値があると西洋の人々に認められれば、泉岳寺は日本遺産どころか世界遺産になってもおかしくない歴史的文化財となります。また、ハリウッド映画で忠臣蔵がリメイクされたこともあり、日本人だけではなく、いまや外国人観光客からも脚光を浴びる観光名所

になっているにもかかわらず、中門の真横に8階建て・高さ23.8メートル、敷地面積約400平米の単身向けマンションの建設工事が始まっており、長年守り続けてきた景観を一瞬にして壊そうとしています。1度建設されればもとに戻すことができないので、区民というより日本人として恥ずかしく、何よりも区の景観が損失し、観光振興の妨げになります。もちろん、日本遺産、世界遺産の夢もその時点で消滅してしまいます。区民ほか多くの方がこのマンション建設に反対し、反対署名の数は2月15日現在で2万3,765名で、うち821名が外国人になっています。この現状を産業・観光振興の立場からどのようにお考えで、どのような具体的対策を考えていらっしゃいますでしょうか。

○産業振興課長（佐々木貴浩君） 観光振興の観点からは、区内の各観光スポットの情報発信を充実させ、多くの方々に訪れていただくことが、観光スポットの魅力を高め、環境の維持にもつながると考えております。

一方で、オリンピックなどに向けた区内のさまざまな経済活動もまた、まちのにぎわいにつながり、産業振興の観点からもまちを活性化させる面もございます。バランスのとれた観光と産業の振興が港区の観光スポットの魅力を高めることにつながるものと考えております。

○委員（錦織淳二君） そのとおりだと私も思います。ぜひ、泉岳寺の景観問題に大至急手を打っていただきたいと思います。企業の目的は契約に基づいた利益追求ですが、企業活動上で重要かつ守るべき基準があり、法令の遵守はもちろんのこと、自然環境、社会環境、人権保護といった道徳的観点から企業活動をしなければなりません。また、企業には社是があり企業倫理がうたってあります。同じく行政側にも、法令遵守だけではなく、まちを守る倫理があるのではないのでしょうか。というよりも、それ以上に日本の文化財を守らなければならないという日本人としての心があると思います。産業・観光振興の担当者としてのお立場から、法令遵守だけではなく、まちを守る倫理の立場からどのように考えていらっしゃるのかお答えください。

○産業振興課長（佐々木貴浩君） 国内外から多くの観光客に区の多彩な観光資源を訪れていただくとともに、各企業や団体等が地域の実情等に応じた活発な企業活動を実施していただけることが地域産業の発展に寄与するものと考えております。多くの事業者は法令遵守のもと利益を求める一方で、地域の発展に寄与するCSRなどの活動にも積極的に取り組んでおり、各地区総合支所などの環境美化活動に参加いただく事業者も年々増加しております。

また、第3次港区産業振興プランにおいても、事業者が地域の発展に寄与するため、CSRの一環として地域社会への貢献に取り組むよう促すこととしております。今後も区内事業者に、観光の視点も含め、地域の発展に寄与する活動に積極的に取り組んでいただけるよう周知・啓発してまいります。

○委員（錦織淳二君） 泉岳寺の問題も、事業者が地域の発展に寄与するため、CSRの一環

として地域社会への貢献に取り組むように促していただき、周辺の景観と合う建物に変更するよう指示してください。それができなければ区で買い取るしかないと思います。

まちの固有文化は、そこに住む人たちの日常生活と生活意識が共有された土壤に生まれます。したがって、住民の幸福という内からの輝きで成立するものなので、住民の皆が反対するマンションが建ったとしたら、長年かけて築き上げてきたそのまちの固有の文化が一瞬にして崩れてしまい、二度と再生はできません。区としても歴史的文化遺産の損失になり、産業・観光振興に大きな影響を及ぼしてしまいます。違法行為がなければ何をしてもよい、許可していくということではなく、区内の観光資源を守っていくのが行政の大切な仕事なのではないでしょうか。

あとは総括質問で区長にお伺いしますので、以上で終わります。

○委員長（二島豊司君） 錦織委員の発言は終わりました。